



ドーハ日本人学校だより

ORYX

THE JAPAN SCHOOL OF DOHA

TEL +974-5591-5772

June 1/2026 No.3



やる気スイッチ

校長 小松 裕和

日本では、例年より早く夏日になっている地域がニュースで報道されていましたが、カタールの天気を調べるともうすでに35度を超えるような気温になっていて、昨年度のこの時期のことを思い出していました。また、日本国内に退避していた児童生徒も徐々にカタールに戻り始め、私たち教員も子どもたちからカタールに戻るとい話を聞きながら早く戻りたいと焦るばかりです。

さて、現在はオンライン授業となっていますが、私たち教員は2020年に改訂された「学習指導要領」に基づいて、子どもたちの主体的、対話的な深い学びをキーワードに授業を進めてきました。この学習指導要領は10年ごとに改訂が行われ、2030年度からは新しい学習指導要領が実施されます。現在は、この改訂に向けて様々な部会の中で子どもたちの「学び」が議論されています。その方向性は、現行のものを引き継ぐ形で、深化させる方向で議論されていますが、その一部をご紹介します。

<主体的・対話的で深い学びの「実装」>

主体的・対話的、深い学びについては、これまでも進められてきていますが、これまでの授業の中では、各教科等の中で行われてきた「知識・技能の習得」と「思考力・判断力・表現力の習得」との関係が十分に発揮されていない（教科内に留まっている）という課題があり、より一層の具現化・深化を図ることが必要との提言から「実装」という言葉が付加されました。

つまり、思考力、判断力、表現力等を発揮する中で、知識の概念としての習得や深い意味理解を促すこと、他の学習や生活の場面でも活用できるような、生きて働く「確かな知識」を習得すること、学びに向かう力、人間性等を育成することとしています。

では、具体的に授業がどのように変わのでしょうか。キーワードは、「探究的な学び」です。AIの急速な発展やグローバル化の進展により、「正解をすばやく出す力」よりも「自分で問いを立て、考え抜く力」が求められる時代です。そのためには、「探究の質」を高めることが重点課題となります。探究学習が「総合的な学習・探究の時間」だけに限定されるのではなく、各教科の日常的な授業においても探究的なプロセスを組み込んでいくという方向性です。「活用から習得へ」という流れ、つまり探究課題に取り組む中で自然と知識・技能を習得していく学びのプロセスをより意識した授業へと改善しています。

そのためには、各学年における教科等の知識・技能の確実な定着をもとに、学習課題から派生して、「これは、どうなんだろう？」「前に使ったこんなことを使えば・・・」という思考を大切し、学校内外でも自分から「調べてみる、やってみる」姿勢を育てていくことが重要となります。

子どもたちの「やる気スイッチ」を大切にしながら自主的な学習にも積極的に取り組ませたいと思います。保護者の皆様には、これからもご支援やご協力をいただくこととなりますが、よろしくお願いいたします。

日	曜	学校行事等	
1	月		
2	火		
3	水	委員会活動	
4	木		
5	金		
6	土		
7	日		15:15
8	月		15:15
9	火		14:15
10	水		15:15
11	木		15:15
12	金		
13	土		
14	日		15:15
15	月		15:15
16	火		14:15
17	水		15:15
18	木		15:15
19	金		
20	土		
21	日		15:15
22	月		15:15
23	火	教育相談	14:15
24	水	教育相談、中学部1学期期末テスト	15:15
25	木	中学部1学期期末テスト JSD祭り	15:15
26	金		
27	土		
28	日		15:15
29	月		15:15
30	火		14:15

【7月の主な行事予定】

- ・ 1日（水） 委員会活動
- ・ 2日（木） 中学部学力テスト①
- ・ 12日（日） 個別面談
- ・ 13日（月） 個別面談
- ・ 16日（木） 1学期終業式

授業日数
22日